

岩手県立江刺病院医療事故の個別公表について

令和 7 年 9 月 2 9 日

発生した事案の概要	発生年月	令和 元 年 7 月
	状 況	手術後、病室にて気管内挿管・人工呼吸器管理中に気管チューブの逸脱を発見、その直後から容体が急変し、迅速な気道の確保を要する状態にあったが、気管切開への対応が遅れ、気道閉塞を来した。
	原 因	・人工呼吸器管理中の鎮静について、浅い鎮静による気管チューブの逸脱リスクが共有されていなかった。 ・逸脱発見時、著明な頸部・顔面浮腫のために再挿管・気管切開を速やかに行うことができなかった。
再発防止策		・人工呼吸器管理中は、夜間帯は鎮静を深くして気管チューブの逸脱防止に努める。 ・喉頭浮腫が考えられる患者の気管チューブの逸脱時は、気管チューブの再挿管が困難であれば、直ちに気管切開に切り替える。